子育て支援

平成19年度新規事業

村では、新年度から子育て支援のため、新規事業として「2歳未満児の乳幼児への紙おむつ給付」と「妊婦健康診査の公費負担の増加」の2つの事業を行います。

紙おむつ支給事業

若い世代における経済的負担の軽減と乳幼児の福祉の増進を図るため、村内に住所があり、現に居住している2歳未満の乳幼児の親および養育している親族に対し、平成19年4月から月額5千円を限度に紙おむつの購入費用を助成することにしました。

受給者に認定されると、一回の請求につき「紙おむつ給付券」が向こう3か月分交付されますので、村内の取り扱い指定店へ当月分の給付券を提示し、5千円を限度に紙おむつを購入することができます。（5千円を超えた分は自己負担となります。）

この事業の給付を受けるには、申請書を役場に提出し、認定を受ける必要がありますが、該当者には改めて通知しますので、手続きをしてください。

詳しくは役場住民福祉課までお問い合わせください。

■**問い合わせ**　村住民福祉課住民福祉係☎49-3112

妊婦健康診査の公費負担

妊娠中の定期健診は、丈夫な赤ちゃんを産むためにとても大切です。医師の指示を守って必ず受診しましょう。

村では、妊婦さんを経済的に支援するために平成19年4月から「妊婦健康診査」の公費負担回数をこれまでの2回から15回に増やします。

目的　妊娠中の健診費用の負担軽減を図り、積極的に受診しやすい環境を整えて、母体や胎児の健康保持増進のために実施します。

対象者　村内に住所があり、これから出産を予定している妊婦

健診回数　「前期健診」…1回／「後期健診」…1回／「その他の期の健診」…13回

費用負担　村が規定している検査項目については、全額村が負担しますが、その他に医師が必要と認めた検査については自己負担となりますので、検査などを受ける場合は医師とご相談ください。

その他

①3月末までに「前期健診」および「後期健診」がすでに終了している方は「その他の期の健診」のみ利用できます。

②「妊婦健康診査受診票」が新しくなり、すでに交付されている方は再交付となります。

③受診票を未使用の方は住民福祉課まで戻してください。

■**問い合わせ**　村住民福祉課国保健康係☎49-3113

子どもたちの笑顔を支援します（写真はこどもセンター）

職場の受動喫煙防止推進のために
(株)オーゼキで健康教室を開催

平成18年4月に策定した「鮫川村地域受動喫煙防止推進計画」に基づき、2月13日に株式会社オーゼキにおいて、「たばこに関する健康教室」を行いました。

健康教室では、県南保健福祉事務所の鈴木主任医療技師より、たばこに含まれる有害物質や受動喫煙の影響、禁煙サポートなどについての講話があり、42人の職員の方が学習しました。

■**健康教室の感想**（株式会社オーゼキ担当中川西宏幸さん）

「今までたばこは体に悪いということはわかっていましたが、今回のお話を聞いて、吸わない周りの人にもかなりの影響を及ぼすということがよく分かりました。お話を聞いてから、『たばこをやめてみようかな。』という職員の声も聞かれるようになりました。今後も職員の理解と協力を得ながら、職場で受動喫煙防止を推進していきたいと思います。」

村では、今後も地域や職場などでの受動喫煙防止推進のための出前講座を予定しています。希望される会社（事業所）は、役場住民福祉課までお問い合わせください。

■**問い合わせ**　村住民福祉課国保健康係☎49-3113

●TOPICS

3月9日、東京都目黒区高齢者センター主催のイベントで村農産物加工・直売所「手・まめ・館」の農産物などの販売と、本郷まさ子農林課農業振興公社準備室長による講演会が行われました。この講演会に参加された目黒区在住の須藤ふみ子さん（東京鮫川会役員・須藤春夫さんの奥さん）より、村に感想が寄せられましたのでご紹介します。

鮫川村の手・まめ・館が、高齢者事業団の主催で目黒に来るということを広報で知り、楽しみに出かけました。参加者は高齢者がほとんどでしたが、会場はいっぱいでした。

まず、村の様子がビデオで紹介され、館長さん（本郷さん）の講演に入り、内容がとてもひきつけられるお話で、みんなうなずきながら聞いておりました。

鮫川村の村づくりは、人口が減少していく中で、村民がどうしたら健康で活気のある生活をすることができるのかが、出発点であったとのことですね。この取り組みは、①「高齢者が楽しく豆づくりをしながら健康になれる」②「豆は健康食品であり、家族で食べて健康になる」③「豆づくりはお小遣いにもなり、生きる励みになる」、そしてこの取り組みが発展し、④「子どもたちの給食には安心・安全な地場産の食材を使うことができるようになった」ことなど、都会に暮らす者にとりましては、大変うらやましいお話を伺うことができました。

医療や福祉が切り捨てられていく現在の社会の中で、経済性や環境、命と暮らしの問題から考えても素晴らしいと感じました。東京では、大型開発や幹線道路が次々と計画され、緑が減り、環境が危ぶまれる中、鮫川村のような村づくりこそ、将来生き残って自立していける村であると感じました。

また、友だちをときどき誘って村を訪れ、ほっとはうすに宿泊して村内を見物していますが、村の四季折々の美しさはどこの観光地にも劣らないと思います。友だちも鮫川村をとても気に入り、ときどき孫を連れたり、友だちを誘って出かけたりしています。農産物もおいしいと注文しています。

今、まわりでは鮫川村がちょっとした話題になっています。私自身、夫のふるさとである鮫川村の魅力をこれからも宣伝していきたいと思います。今後の発展を心より祈っています。